

# 経営比較分析表

佐賀県 小城市

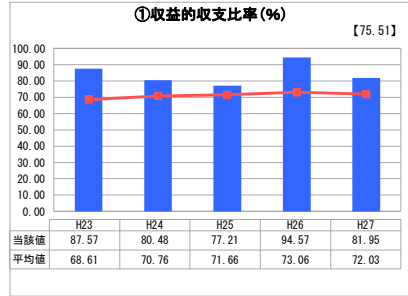
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.66	3,348

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
45,851	95.81	478.56
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
302	5.40	55.93

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [ ] 平成27年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



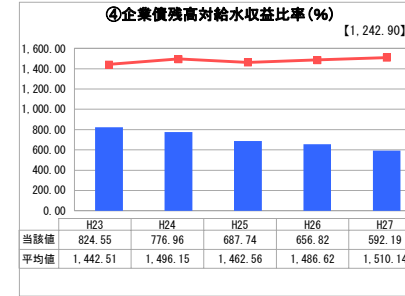
「単年度の収支」



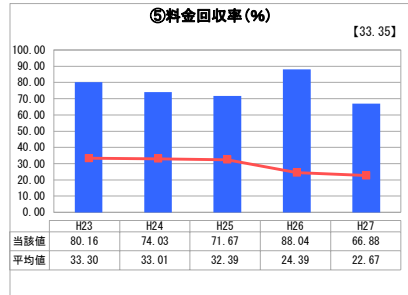
「累積欠損」



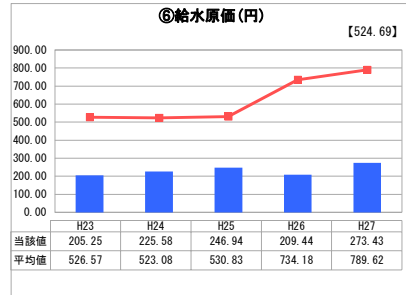
「支払能力」



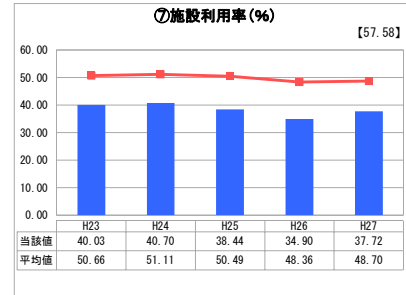
「債務残高」



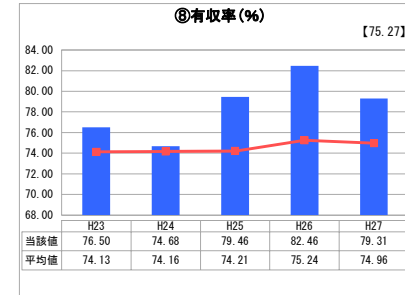
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

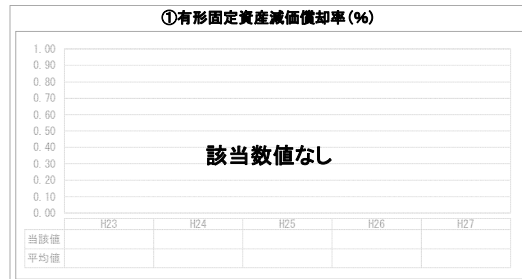


「施設の効率性」

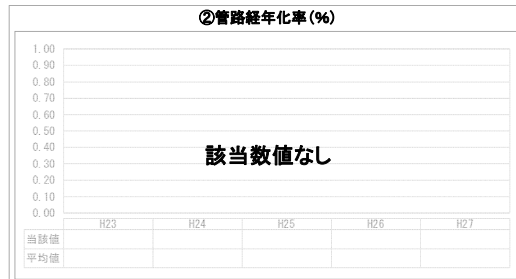


「供給した配水量の効率性」

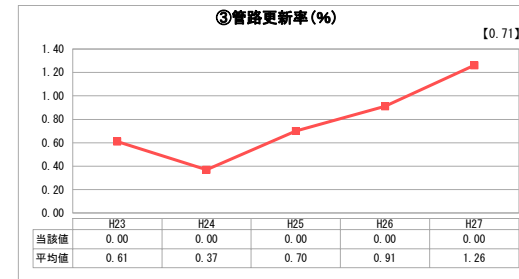
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は年々低下の傾向がみられていたが、平成25年度から水道料金の値上げを実施し、給水収益の改善を図ったため向上している。

次に、企業債残高対給水収益比率については、新たに企業債の借入れを行っていないことで残高は減少している。

また、料金回収率は類似団体平均値を上回っていたが、料金の値上げにより改善がみられる。

しかし、平成27年度は、更新工事等を実施したため、昨年度より収益的収支比率及び料金回収率が低下している。

なお、有収率は漏水調査を実施し、その結果に基づき修繕等を行っているため、平均値より高く推移している。

### 2. 老朽化の状況について

整備後46年が経過した設備などがあり、今後老朽化対策が必要となるが、修繕による維持管理に努めているのが現状である。

## 全体総括

山間部という地理的条件のため給水人口の増加は見込みにくい。

水道料金の値上げにより経営の安定を図っているが、今後も経費節減等や修繕による維持管理に努める。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。